

視察調査報告書

報告者氏名:南 まさみ

委員会名 :環境教育常任委員会

期 間 :令和6年10月21日(月)～23日(水)

視察都市・視察項目 :I. 神奈川県川崎市
「環境問題をテーマに市民が学べる施設について」
II. 大阪府泉大津市
「体育館の空調設備について」
III. 福岡県北九州市
「教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について」

所 感 等:

I. 神奈川県川崎市
『環境問題をテーマに市民が学べる施設について』

視察の目的:

資源循環整備事業の一環として資源化処理施設(王禅寺処理センター)内に設けられている、「見て、聞いて、さわって」楽しみながら体験するゾーンを視察し、本市の環境教育の参考とする。

事業概要:

王禅寺エコ暮らし環境館には、資源循環ゾーン、温暖化対策ゾーン、自然共生ゾーン、総合学習ゾーンの4つの展示ゾーンがあり、資源循環や温暖化対策、自然共生について楽しく学ぶことができる施設として、平成24年に建て替えられた川崎市北部のごみ処理を担う王禅寺処理センター内に併設されている。

1. 資源循環ゾーン

資源には限りがあり、限りある資源を循環させることが大切で、3R(ごみを減らす・くり返し使う・資源として使用する)を勉強して、ごみを減らし有効に活用することを学ぶ。

2. 温暖化対策ゾーン

地球温暖化は、私たちの生活が大きく影響しており、一人一人が日常生活を見直すことで、より良い環境を未来へ残すことができることを学ぶ。

3. 自然共生ゾーン

人間や他の生き物たちが共存し合い、自然の恩恵を受けられる社会を目指し地球上の全ての生き物にとり、暮らしやすい環境を守ることの大切さを学ぶ。

4. 総合学習ゾーン

市役所の取組・市民の取組・企業などの取組を紹介し、環境シアターで川崎市の環境への取組や、それぞれのゾーンのまとめと復習の映像を見ることができ、自分たちが住む地球の環境についてももう一度考えることができる。



環境シアター

所感:

環境教育の必要性は、地球環境の悪化や環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題であり、環境問題への関心を喚起し、理解を深め、問題解決能力を育成し、行動を促すことにある。本市では、平成27年度から環境に関する専門的知識や経験のある市民ボランティア・市民活動団体・市内企業等の方を環境教育指導者として登録し、市立小学校をはじめとする環境教育の場へ派遣する「よこすか環境教室(環境教育指導者派遣事業)」を行っており、多くの方が環境教育・環境学習の機会を持ち、環境に対する理解や関心が深まることを目指してはいるものの、環境に関わる部局が複数あり、全体を俯瞰して所管する部署がないことが課題として上げられる。

環境教育は、21世紀を担う子どもたちへの教育として極めて重要であり、環境保全のための取組に重要な役割を担う人や次世代を担う年齢層を対象として実施すべきもので、知識蓄積型ではなく、体験を通じて、自ら考え、調べ、学び、そして行動するという過程を重視したものが重要となってくる。そこで、環境教育全体を俯瞰して所管する部署の検討、及びリサイクルプラザ「アイクル」を活用し、様々な環境問題を

網羅した展示スペースの設置は、本市における環境教育・環境学習の促進を促すものとする。

所感等

II. 大阪府泉大津市

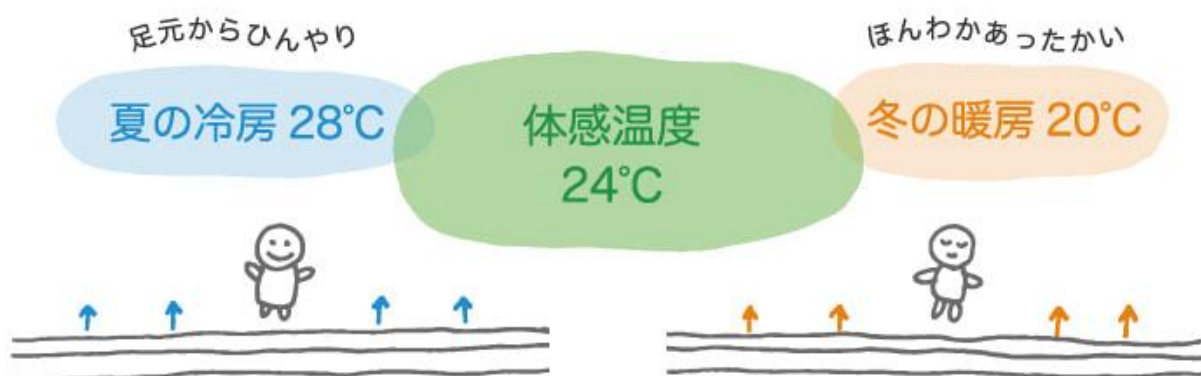
『体育館の空調設備について』

視察の目的:

床下からの熱による温度管理をすることにより、風の影響を受けやすい競技や感染症対策として換気を行っても室内温度の変化に影響が少ない、全空気式床ふく射冷暖房システムを採用している泉大津市立総合体育館を視察し、本市の体育授業や災害時に避難所となる体育館の参考とする。

事業概要:

泉大津市立総合体育館は、市民を元気にする運動スポットとして、いつでも好きな運動ができるトレーニングルームを完備しており予約なしで利用でき、体育室では様々な体操やダンスなどの運動教室も開催されている。また、エアコンの冷温風を床の中に送り、ふく射熱で空調を行う「全空気式ふく射冷暖房システム」を導入、気流を起こさずにアリーナ床面から高さ3m程度の空間のみ冷房・暖房をすることができるため、バドミントンや卓球、新体操等の風の影響を受ける競技でも、快適にプレーが可能な施設となっている。



所感:

パネル等を通すことでふく射熱に変える空調システムは、風が直接当たらないので、乾燥肌やアトピーの方にも優しく、ほこりやウイルスが舞い上がらないので感染症予防や、おだやかな冷房で熱中症対策になる。また、床温が床暖房のように熱くならないので、低温やけどの心配もなく、洗面所、更衣室、トイレなども部屋と同じ温度になることから、高齢者に多いヒートショックの防止にもなる。

災害時には震災時避難所となる本市の小中学校の体育館では、近年の急激な温暖化により、授業に支障をきたす事例も起きており、体育館への空調システム導入は検討すべき課題である。全空気式床ふく射冷暖房システムの、熱源として使うのはエアコンから噴出される空気のみで、電熱式や温水式でないため液体漏れや漏電などの危険を心配する必要がなく安全であり、液体の交換などメンテナンスフリーであるものの、本市の体育館への導入は、構造上、また、導入コストの面から推察すると難しいものと考える。

所 感 等

Ⅲ. 福岡県北九州市

『教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について』

視察の目的:

業務改善の取組を強化するため体系的な分析や今後の取組方針を取りまとめた「学校における業務改善プログラム」や「学校における業務改善ハンドブック」を策定するとともに、保護者や地域の理解・協力を得るために、「北九州市立学校における業務改善推進拡大会議」を新たに設置するなど、教員の時間外在校等時間の年間平均を大幅に改善している取組を視察し、本市における教職員の業務改善の参考とする。

事業概要:

福岡県の北端に位置し、小学校126校、中学校63校、特別支援学校8校、市立高校1校を有する人口91万人の政令指定都市である北九州市は、令和2年度の業務改善推進拡大会議において「民間企業の新たな視点を取り入れた更なる業務改善の推進を図ってはどうか」との意見を受け、民間企業における働き方改革の視点を踏まえた学校業務や学校組織体制の見直し等を図り、休憩時間の確保や持ち帰り仕事の縮減のために更なる業務改善の取組を進めることを目的に、令和3年度に学校における業務改善コンサルティングとして、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングへ業務委託した。

所 管:

本市においても、教職員の働き方改革は喫緊の課題として業務改善のさらなる推進が求められている。北九州市においては、

- 平成29年に「学校における業務改善プログラム」及び、「学校における業務改善ハンドブック(第1版)」の策定
- 平成31年に「学校における業務改善ハンドブック(第2版)」の策定、及び、「学校における業務改善提案」報告会の開催
- 令和2年に「教職員の勤務実態に関する調査」を実施し、「教職員の勤務実態に関する調査の概要及び、「新しい生活様式を踏まえた業務改善の取組」の策定
- 令和3年に「学校における業務改善コンサルティング」実施、及び、「令和3年度学校を支援する教育委員会の取組」の通知

- 令和4年に「令和4年度学校における業務改善の推進を支援する教育委員会の取組」の通知
- 令和5年に「学校における業務改善プログラム(第3版)」の策定
- 令和6年に「教職員意識アンケート」の実施
- 令和7年に「教職員意識アンケート」を踏まえた「勤務実態に関する調査」の実施を予定

など、継続的な取組をしていることが改善に繋がっているものとする。

また、小学校における教科担任制、持ち合い授業導入の促進や、専科教員のほか、長欠・不登校や特別支援補助等講師の配置、及び、教員業務支援員(SSS - School Support Staff)を全小中学校へ配置するなどの人的支援が効果をあげているものと思われる。県から教職員が配置されている本市においては、市単独で費用を賄わなければならないため、難しい側面を有しているが、全中学校へ導入した自動採点システムは、中学校での採点業務にかかる時間が大幅に短縮されるということで、本市においても導入の検討をすべきものとする。

また、更に業務改善を推進するためには、子どものために、たくさん時間をかけて良いものを作り上げようとする等、先生自身の「こだわり」による時間外在校等時間の増加を防ぐための、教職員の「意識改革・マインドセット」も忘れてはならない取組であり、より質の高い授業の実現や子どもと向き合う時間の確保に繋がると考える。学校における業務改善が、保護者や地域の住民の理解と協力のもと、全ての取組の基盤になることを意識したマネジメントの大切さを全市で共有することが必要不可欠とする。

*添付してある写真や図表は各団体・自治体のホームページからの転用を含む